

豊科南小学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 — 安曇野市立豊科南小学校

1 はじめに

安曇野市立豊科南小学校は安曇野市の南に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、近くを拾ヶ堰が流れ、水田に囲まれている自然豊かな学校である。

児童数 685 名、1～5 年生が学年 4 学級で 6 年生は学年 3 学級、特別支援学級 5 学級、こども病院の院内学級 1 学級を含め全 29 学級の中規模校である。学区内に住宅地が造成され、時代の流れに逆らうかのようにここ数年児童数が微増し続けている。広い校地を有し、1, 2 年生と特別支援学級が南校舎、3 年生以上は北校舎でそれぞれの棟に独立している。また、バッテリー校舎のため、3 年生以上の教室がそれぞれ独立した校舎になっている。

このようなことから、災害時には校地の到る所から児童が避難してくることが想定され、児童自身が防災教育の点から「自ら考えて避難できる」ことが大切であると考える。また、児童数が増加していることから、有事の際に速やかに避難できるよう計画を常に見直していくことが必要である。

2 安曇野市立豊科南小学校の防災組織

○本部（校長、教頭、教務主任、防災係主任） ○連絡（教頭、教務主任、事務）
○統率（学年主任） ○巡視 ○初期消火 ○救護 ○救急医療

3 今年度実施した避難訓練について

(1) 聞き取り訓練 4月9日（金）休み時間に実施

①ねらい 新年度になり、緊急地震速報放送を落ち着いた状態でしっかりと聞き取ることができるかどうか確かめる訓練を行う。また、緊急放送がどこ の場所でも聞き取れるかを職員が確認をする。

②指導内容 緊急地震速報がなった場合、その場にすわり落ち着いて放送の内容を聞き取ることができたかどうか。また、各教室からの避難経路を覚えること、災害時の避難の仕方、放送の聞き取り、「おはしも」の確認をする。

(2) 春季避難訓練 4月19日（月）2校時実施

①ねらい 理科室より出火、北風にあおられ燃え広がるおそれあり、避難経路を確認し、安全に避難する。

②指導内容 新年度になり、新しい教室からの避難経路を確認する。口を閉じて、担任の指示をしっかりと聞く。

(3) 災害時引き渡し訓練 9月3日（金）5校時実施

以下の内容で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。今年度は、初めて学区の中学校と連携して同日同時刻に開催予定だったが、残念であった。

- ①ねらい 自然災害が起きたことを想定して、非常時の児童の避難方法を確認し、保護者に児童引き渡しの方法を理解してもらうとともに、災害に対する関心を深める。
- ②想定 大雨により犀川、万水川が氾濫注意水位に達し、学区に避難準備情報が発出された。
- ③指導内容 各教室から保護者への引き渡しが必要になったとの想定。今年度は教室からの引き渡し。校庭・体育館・教室と年ごとに順を引き渡し場所を替えて訓練を実施している。

(4) ショート訓練 9月 24日（金）朝の時間報知音の試聴

10月 13日（水）休み時間終了 5分前

- ①ねらい 授業時以外に地震が発生した場合において、いつ、どこにいても身の安全を確保するよう自ら判断して動ける態度を身につける。
- ②指導内容 緊急地震速報を聞いたときにとっさに身を守る行動がとれるように事前指導しておく。児童が身の安全を確保しているか、パニック状態の有無などを確認する。

(5) 秋季避難訓練 11月 2日（火）休み時間～3校時実施

- ①ねらい 震度5強の揺れ、地震速報及び緊急放送をきちんと聞き取ることができる。
- ②指導内容 緊急地震速報を聞き、揺れに対応できる姿勢をとる。
自分の身を守る帽子などを身につける。
放送を聞き、安全な経路を通って校庭に避難する。
校舎内のある箇所のガラスが割れたと想定し、該当する6学年は経路を自ら判断し避難するよう設定

4 落雷に備えた児童引き渡しの実施

6月 16日（水）落雷に備えた児童の保護者引き渡しを行った。訓練ではなく本番である。当日は低学年が下校を終えてからの雷鳴だったため、高学年児童のみを引き渡すこととなつた。児童引き渡し訓練日よりも早い時期での引き渡し実施となつた。

(1)引き渡しの理由 落雷の危険性があるため迎えを要請。

(2)保護者の動線

- ①校庭に駐車…職員が校庭で車の誘導
- ②体育館校庭側扉より入場…入口で手指消毒
- ③学級担任が引き渡しカードを使いながら児童引き渡し
- ④体育館の反対側の扉から退場し、各学年昇降口から下校。

(3)振り返り・反省

- ①高学年児童のみであったため、低学年担任など手の空いた職員が保護者の誘導にあ

たることが出来たが、全校一斉となると余裕がないことを感じた。訓練を経験していない緊急対応であったが、臨機応変に職員が動き、対応できた。

- ②ぬれた傘を持って館内を移動すること、濡れた靴下で歩くことになるなど、実際には思いがけない対応が必要となることがわかった。
- ③引き渡しカードにない方が迎えに来ることがあり対応に苦慮した。



入口に案内板を設置

コーンで車道と隔離

5 学校防災アドバイザーとのかかわり

学校防災アドバイザー：本間喜子先生（信州大学学術研究・産学官連携推進機構 助教）

(1) 第1回 7月29日（木）14:30～15:30

①引き渡し訓練計画への助言

9月に行う訓練の計画案についてご助言いただいた。

数日前に安曇野市から出された水防タイムラインを基に、本校でのタイムライン作成についてご提案いただいた。

防災教育として、各家庭でのタイムライン作成への取組や教材についての視点を紹介していただいた。

②6月16日（水）児童引き渡しについての助言

反省を踏まえ、次の事についてご助言いただいた。

- ・引き渡しカードに名前のない方が迎えに来たことへの対応について

過去の連れ去り事件についての事例を伝え、名前がある人以外は引き渡しが出来ないことを改めて伝えておくと良い。今回のことでの動きが見えたので、今後につなげたい。

- ・地域によっては住宅や道路が水没している可能性もある。水害の場合は、帰宅が可能なのか保護者自身に最新情報を確認してもらうと良い。（学校は対応に追われていて、最新情報を得にくい）また地域から迎えに来た保護者が最新情報（○○の道路が水没している等）をもっている場合があるので、その情報を有効活用することが大切。

- ・迎えに来たが、そのまま保護者共々学校に残した方が良い場合もあることを承知しておくことが大切。

③家庭・地域と連携した防災訓練の実施についての相談

コロナ禍で地域との話し合いの場がもてず、連携が滞っている状況を報告した。

今後、どこから手をつけていけば良いかを相談。まずは顔合わせをすることが大切であることを教えていただいた。

④校内施設について現地指導

⑤職員への講演についての打合せ

(2) 第2回 9月10日（金）職員研修会

予定していたが、学校の都合により中止した。その後日程の調整を試みたが、今年度の2回目の訪問は断念した。

5 今後の課題

- (1) 今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の関係で、様々な行事を中止したり制約したりせざるを得ず、地域との連携を図るのが難しい状況であった。次年度は、地域と一緒に訓練を行っている中学校とも連絡をとりながら、地域との連携を進めていきたい。
- (2) 児童の引き渡しを実際に行う機会があった。災害時はさらに困難が予想される。どんな状況が予想されるかさらにイメージして、危機管理体制を見直していきたい。
- (3) 昨年度の防災アドバイザーの指導を受け、今年度はショート避難訓練を教育計画に位置づけて実施できた。さらに様々な想定を組み込んで、児童や教職員の防災意識を高めていきたい。

6 まとめ

日本の各地で毎年水害が起きている。また同時に地震も頻発している。備えを怠ることは出来ないし、世の中の防災意識も高まっているように感じる。防災意識が低下しないように児童への指導と共に家庭への働きかけも続けていきたい。

(文責 教頭 雪入 哲也)

防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取り組みについて

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

安曇野市立豊科北小学校

1 はじめに

本校は、糸魚川一静岡構造線の外縁に位置し、内陸型地震の発生確率が極めて高い場所に立地している。そのために、より実践的で効果的な避難訓練が要求され、児童一人ひとりが自分の身は自分で守る意識を育てることが急務となっている。

一昨年度は、4年生の学級で、緊急時における行動の仕方について考える防災学習に取り組み、防災アドバイザーからアドバイスをいただいた。

また、昨年度より、5学年の行事であったキャンプを「防災キャンプ」とし、本校が避難所になったという想定で行う内容とした。

防災キャンプでは、日本赤十字協会長野支部にご協力いただき、避難所開設ゲームを実施したり、地域の方に協力いただき炊き出し訓練を行ったり、体育館に避難所を児童自らの手で設営したりしながら、緊急時に児童自らが主体的に考え、判断していく力をつけることを目指した。

本年度は、市より防災テントを児童の人数分お借りし、体育館やプレールーム、視聴覚室に設置して宿泊体験をさせていただいた。また、地域の方の協力を得て、避難所で有効な食事の作り方を体験的に学ばせていただくことができた。

2 安曇野市立豊科北小学校の防災体制について（概要）

毎年「学校防災計画」の見直しをするとともに、年度初めに「学校防護団」「避難経路図」「休憩時避難誘導分担図」の確認と掲示を行い、教職員への周知徹底を図ってきた。

3 年3回の避難訓練について

(1) 第1回避難訓練（4月14日 中止）

授業中の火災を想定して行い、避難経路の確認と安全な避難の仕方を身につける予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

(2) 引き渡し訓練（5月28日 延期の後中止）

災害等緊急時に、保護者に引き取りに来てもらう必要がある場合の引き渡し方を身につける予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

(3) 第2回避難訓練（9月1日 実施）

緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練を計画。授業中の地震とそれにともなう火災を想定して行い、地震や火災の際の安全な避難の仕方を身につける予定であったが、3密を避けるため、各学級で避難のための整列までを行い、避難経路の確認を中心に実施した。

(4) 第3回避難訓練（11月10日 実施）

児童に訓練の予告をせず、休み時間の火災を想定して行うことで、避難指示の放送を聞き、自分で判断して安全な避難経路を通り避難する方法を経験した。本年度は緊急放送を聞くまでの事前訓練は実施せず、ぶつけ本番でも児童が落ち着いて

対応できるかを訓練した。緊急地震速報受信システムの地震到達秒数を0秒で実施した。

4 防災学習（防災キャンプ）の実施

- (1) 日 時 7月7日（水）・8日（木）
- (2) 実施学年 5学年（男子48名 女子59名 計107名）
- (3) 防災学習の概要

①ねらい

- ・災害時における自助と共助の考え方や避難所における生活での課題について、体験学習を通して理解を深める。
- ・友だちとの協力の大切さを感じたり、避難所での共同生活に必要なルール（時間を守る・自分勝手な行動をしないなど）を学んだりする。
- ・計画・実行・反省を通して自主的・自律的な態度を育てる。

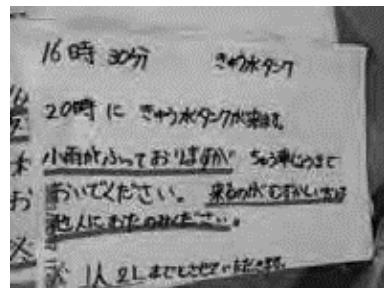
④ 防災学習の概要

①1日目午前中



日本赤十字社の方に教えて頂きながら、「ドローイングチャレンジ」や「避難所体験ゲーム」を体験した。災害が起きた時、避難所では次々と避難者を受け入れなくてはならず、さらに避難者の中にはお年寄りや病気を患っている方、ペットを連れている家族など、様々な方が避難してくることが考えられる。子どもたちは、「この家族は体育館に行ってもらおう。」「ゴミ捨て場はこっちの方がいいよね。」「赤ちゃんがいるから、別の部屋の方がいいんじゃない？」などと話し合いながら、班の仲間で協力して避難所内の配置を考えた。

ある班は「避難所掲示板」用のメモを作成した。赤ラインを引いて大切なことをわかりやすく伝えたり、避難してくる人のことを考えて制限を設けたりするなど、状況を想像しながら必要なことを考えることができた。



②1日目午後

1日目午後は、チームに分かれた活動を中心に行った。

かまどチームは、班ごとにブロックや石を使い、工夫してかまどを作った。また、県の「地域発 元気づくり支援金」を活用して購入した防災ベンチに内蔵されているかまどを取り出し、かまどとして使う班もあった。かまどが用意できると、枝や薪を用意し、食事を作るための火を起こした。踏入地区の区長さんをはじめ、地域の方々にもご参加いただき、新聞紙



を使った火のつけ方や、細い枝から次第に太い薪を使うことを指導していただいた。食事チームは、カレーの材料であるにんじん、タマネギ、ジャガイモ、ソーセージを切り、カレーのルー、水とともに一人分ずつビニール袋に分けて入れた。ご飯も同様に、水とお米を一人分ずつビニール袋に分けて入れた。ビニール袋は中身がもれないように口を縛り、袋ごと飯盒や鍋に入れて煮ると、

一人分のカレーライスができあがる。この方法は、使った飯盒や鍋をほとんど汚すことがなく調理ができる、水が不足する避難所において、洗い物を圧倒的に減らすことができる大変優れた方法である。

できあがったカレーライスを味わった子どもたちは、通常の調理法で作ったものと遜色ないできあがりであることを知り、災害時に有効な食事作りについて、体験を通して学ぶことができた。



③ 1日目夜

夜の集いでは、保健係が避難所でできる体操をみんなで行った。狭いところでの生活で体が固まってしまうのを防ぐため、あづみの健康体操、ストレッチ、スクワットなど狭いスペースでできる運動を行った。



寝床となった防災テント（パーテーション）は、一人だととても広々としており、コロナ禍でも安心して避難所での生活が送れることが分かった。しかし、家族4人では、狭いということも実感できた。

「床が固くてなかなか眠れなかつた」という子が多く、普段と違って夜中にトイレに行ったり水を飲んだりする子も見られ、家で安心して眠れることのありがたさを感じることができた。

④ 2日目

朝6時に起床。ラジオ体操を行った。雨天のため校舎内で行ったが、避難所生活はどうしても運動不足になりがちなので、ラジオ体操も大切な活動である。朝食は、食パン、バナナ、カップスープと避難所生活らしいシンプルなメニューとした。

次に、市から借りた防災テント（パーテーション）を片付けた。除菌シートで全体を丁寧に拭き、破損しないよう市の方に指導していただきながら慎重に片付けを行った。その後、各係の仕事に責任を持って取り組み、終わりの会をして全日程を終了した。



防災キャンプを通して、子どもたちは、みんなの協力と役割分担が必要なこと、避難所ではたくさんの方と共同生活をするため、お互いに気持ちよく過ごせるようにしなくてはならない事、レクレーションはできなくても我慢することなど、「避難所での生活」を具体的に体験することができた。また、今回の経験から、避難所でお世話になるという意識ではなく、「避難所生活では、自分ができることをする」という意識を高めることができた。

災害は決して他人事ではなく「自分事である」ということを実感し、これから的生活にも生かせる多くの学びがあった防災キャンプとなった。

6 学校防災アドバイザーから受けた指導

本年度は、本校の防災教育への取り組みについて実施状況を防災アドバイザーに伝え、本年度の3回の避難訓練の実施時期・方法についてと、本年度計画されたがコロナ禍のため実行できなかった3校合同避難訓練（引き渡し訓練）の実施方法についてアドバイスをいただいた。

(1) 本年度の避難訓練について

- ①実施時期は今今までよい。
- ②3回目の訓練（11月・児童への予告なし・休み時間での火災）では、感知器が作動したという実際に即した設定で、職員間の連絡の取り合い、初期消火係の動きを入れるなど、本番で起こりうる状況を想定し行ったのはとてもよい。いざというときに職員室・事務室の職員や防護団がどう動くかを入念に確認しておきたい。
- ③避難訓練は、ともすれば「教師の指示に従うこと」が最も良いことであるかのように指導されているが、それでは本番で自分から何も考えられない人間が育ってしまう可能性がある。例えば、初期消火も、職員がその場にいないとか、自分が一番消化器に近くてすぐに対応できるなら、子どもが自分で行っても全く悪くはない。実際、家にいるとき火事になって指示してくれる人がいない場合、自分が何とかしなければならない。「指示に従う」ことを強調しすぎると受け身的でいざというとき何もできない子が育ってしまう。状況に応じて自分で考え、必要なことを探し、気づいて行動する力を育てることが最も大事である。
- ④人が密集しているような場合は、「指示に従うこと」が合理的である。一人あるいは少人数の場合は、「状況に応じて自分で考えて行動」する必要がある。こうした違いも子どもたちが理解していることが大切。

(2) 3校合同避難訓練について

- ①保護者が児童引き渡しに際してどのように行動すれば良いかすぐ分かるよう、クラウドにマニュアルを置いて、いつでもアクセス可能にしておくと良い。
- ②実際の災害では、電話はパンクして繋がらない可能性が高い。チャットなどの文字情報はその場ですぐに送れるので、導入を検討しても良い。ただし、メンテナンスや引き継ぎには課題があり、研究が必要。
- ③市のハザードマップを校内に掲示しておきたい。
- ④学校の立地条件からみて、道が狭く駐車場もないため、自家用車で来校しての引き渡しは厳しいため、以下のようない工夫が必要。
 - ・可能な人は一旦家に車を置いて徒步で来てもらう
 - ・地区ごとに時間を決めて、引き渡しの時間をずらす
 - ・誘導のボランティアを予めお願いする
 - ・中学校に車を置いてきてもらう
 - ・低学年から引き渡すなどのルールを確立する
- 実際に訓練を行うことで、課題を見いだし、解決していきたい。

7 事業の成果及び今後の課題

- (1) 学校防災アドバイザーの島田先生より、避難訓練で生かせるいくつかの重要なアドバイスをいただき、方法や考え方について具体的な改善点が明らかになった。
- (2) 毎年入れ替わる職員に対して、定期的に、防災機器の使い方やシステムの理解を進める研修を設ける必要がある。
- (3) 学校防災アドバイザーからもご指導いただいたが、緊急時に児童自らが主体的に考え、判断し、対応できる力を身につけていくことが求められる。これからも、消火器の使い方や学校の防災システムの仕組み、家庭や地域の取り組みなどを総合的に学べる防災学習を継続的に行えるよう位置づけていきたい。

（文責 教頭 丸山 浩）

豊科南中学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取り組みについて

—地域防災学習の実施・学校防災アドバイザー派遣・引き渡し訓練計画—

安曇野市立豊科南中学校

1 はじめに

安曇野市立豊科南中学校は安曇野市の中央に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、学区内に拾ヶ堰が流れ、水田に囲まれている自然豊かな学校である。豊科中学校が豊科南中学校と豊科北中学校に分かれ、本校は昭和 60 年に開校した。生徒数 316 名、各学年 3 学級、特別支援学級 3 学級、こども病院の院内学級 1 学級を含め全 13 学級の中規模校である。校舎は南と北に 1 棟ずつであり、1 階と 2 階にそれぞれの校舎をつなぐ渡り廊下が設置されている。北校舎には校庭側（北側）に非常階段があり、すぐに屋外に出られるような構造になっている。

学区内に山や大きな河川があるものの、職員も生徒も防災（特に水害）に対する意識が低い。防災マップの見直しにより、本校が犀川と万水川の二つの河川の浸水区域に指定されたことを意識させ、自分の身自分で守る意識を高め、緊急時の避難行動が自発的にできる生徒を育てたい。本年度は、昨年度より計画をしていた引き渡しを含む水害に関する避難訓練を小学校と連携して実施予定だったが、コロナ禍の影響で実施することができなかった。来年度は、今年度の計画を元にして実施に向けて準備を進めていく。

2 本年度実施した避難訓練

(1) 第 1 回避難訓練（コロナ禍の為、緊急放送、避難経路の確認の実施）

- ①当初の実施予定日：4 月 30 日（金）
- ②実施内容：避難経路の確認・非常事態への対応 ※放送による

(2) 第 2 回避難訓練（コロナ禍のため中止）

- ①実施日：9 月 3 日（水）
- ②実施内容：水災害防災（水防）引き渡し訓練・職員研修

○ 万水川の氾濫による生徒の保護者引き渡しを想定した水害防災引渡訓練

- ・オクレンジャーの配信と引き渡し準備
- ・体育館への避難（水平避難）
- ・保護者への引き渡し
- ・3 階への避難（垂直避難）

(3) 第 3 回避難訓練

- ①実施日：11 月 4 日（木）

- ②実施内容：避難経路の確認・非常事態への対応

- ア 訓練の意義や火災発生時について各学級で指導
- イ 火災報知器の作動・防火扉防火シャッターの開閉
- ウ 避難経路の安全確認・避難指示

- エ 生徒と職員の人員確認
オ 防護団活動（係活動の確認）



3 本校の避難訓練からの課題

防災マップの改正により、本校は犀川と万水川の浸水想定区域の学校となった。安曇野市作成水防タイムラインに沿った行動を考えると、「氾濫注意情報」が出た段階で保護者への引き渡しを行うことになる。本校は今まで地震や火災を想定した避難訓練は行ってきたが、水害想定での避難訓練や引き渡し訓練を行ったことがなく、本年度は実施予定だった。来年度は、今年度の計画を元に水害想定の引き渡し訓練を行う必要がある。

4 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 避難訓練参観・事後指導

① 実施日 10月1日（木） 15：30～

② 指導・助言

ア 保護者が引き取りに来たときの駐車場の確保と動線の確認

イ 垂直避難・水平避難についての違い

垂直避難の場合、1階が浸水するとトイレが使用できない。

ウ 引き渡しを連絡するタイミング

氾濫警戒情報で引き渡しでは間に合わない。

エ 引き渡しカードの活用

(2) 水害避難・引き渡し訓練のための職員研修

① 実施日 11月4日（木） 10：30～12：30

② 指導・助言

○ 今回の訓練について

ア 警報発報時、生徒がざわざわせず、その後の避難もスムーズに行われていた。

イ 避難後、職員が欠席数を確認している際にも、生徒はきちんと待っていた。

ウ 冬場や雨天時の避難場所を検討しておくとよい。またそのような場合には、防寒着をもって出ることも周知しておき、できるようにしておくとよい。

エ 職員は、両手があくように、地区名簿などを小さなナップザックに入れておくとよい。その中には、地区人数分のアルミシートや替えのマスク、ウェットティッシュなどをいれておくと便利。

オ 生徒一人ひとり小さな防災ポーチを机の横にかけておくとよい。その中にはアルミシート、替えのマスク、ウェットティッシュ、常備薬などを入れておく。避難する際にはそれを持って出る。

カ 引き渡しカードに、迎えに来る可能性のある人の名前がすべて書かれているかを確認しておく必要がある。他校で、記載されていない人が引き取りに来て困った事例がある。

○ 水害時の避難について

- ア 同じ学区の小中学校での引き取り順序は、中学校⇒小学校の順が原則。
- イ 川の水位の上昇スピードによって、授業打ち切りと生徒の引き渡しのタイミングの判断を行っていく。ただし、レベル3高齢者等避難が発令されると地域から避難者が学校に来る。生徒の引き渡しと避難者対応が重なるので混乱しないように、早めに授業打ち切りと引き渡しの判断をすることも考えられる。
- ウ レベル4避難指示発令で引き渡しを打ち切るのが原則。ただし川の水位の上昇スピードが速い場合には、その前に引き渡しを打ち切って避難行動に移ることもありうる。
- エ 水平避難と垂直避難について、垂直避難は浸水が始まっている状況での最終手段とし、垂直避難しなければならなくなるまで状況が切迫する前に水平避難を行うというのが基本的な考え方である。なお、垂直避難をする場合には、水、非常食、毛布、簡易トイレ等の確保とセットで行うこと。

5 地域防災学習の実施

(1) 目的

生徒たちが自分たちの地区の防災対策や防災訓練を知ったり様々な奉仕活動を行ったりすることを通して、地域を守り支える大切さを知ったり地域を大切に思ったりする心を養う。

(2) 実施日 令和3年5月25日（火）午後2：30～4：00

① 地域防災学習 2：30～15分程度 ② 奉仕活動 3：00～4：00

(3) 実施後の反省

- ア 地域の方々と顔を合わせることにより、どんな人がいるのかの確認、実際に物を使用しての体験（地震体験車乗車、消火栓の使用法等）をすることができた。
- イ 区長さん、防災リーダーさんの話をしっかりと聞いていたし、防災倉庫の中も見せていただけて有意義だったと思う。
- ウ 地区の副区長から地区の防災に対してのお話を聞いていただき、公民館の防災グッズや公園の防災施設を見学し、説明を聞くことができたことはよかったです。
- エ 企業の防災取組についての内容は、生徒・地域関係者からとても好評だった。
- オ 防災マップ、防災冊子等を準備してくださっており、とても意識の高い学習となつた。
- カ 企業の協力もあって、充実していた。講話だけではなく、「パンクをしない自転車」に乗ったり、「リヤカー」を引いたりと体験学習ができて良かった。



5 事業の成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 学校の立地場所から想定される水害の危険性を職員が意識することができた。
- ② 防災アドバイザーの助言から、生徒引き渡しの具体的なイメージと配慮すべきことを再確認することができた。
- ③ 地域防災学習から、生徒自身が地域の方々から地域防災の仕組みを教わることができ、自分は地域に何ができるのかを主体的に考えることができた。

(2) 課題

- ① 小学校と同日に合同引き渡し訓練ができるように小学校と連携して計画を立案する。
- ② 校内での引き渡し手順をマニュアル化し、保護者と共有する。
- ③ 地域と連携した防災学習や防災訓練をさらに進め、生徒の地域防災への意識を高める。

(文責 教頭 尾臺 博之)

学校安全総合支援事業の取組について

—緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施・計画—

安曇野市立豊科北中学校

1 はじめに

本校は安曇野市豊科の中心に位置し、豊科北小学区、豊科東小学区の生徒 359 名が在籍している。

2 安曇野市立豊科北中学校の防災体制について

学校防災計画を作成し、その計画に則り係活動を行う。活動の概要は以下の通りである。

(1) 学級活動係と連携をとって、次の事項を実施する。

- ① 災害の恐ろしさ、状況に応じた避難の仕方、初期消火の心得(消火器の使い方も含め)等、災害に対する理解を深める。
 - ② 避難の基本原則の理解・人員把握、報告の日常化を図り、緊急時に対応できるようにする。
 - ③ 災害の状況に応じた避難の仕方を、学級あるいは学年単位で確認する。
- (2) 非常時の火気に対する注意は、営繕係、暖房係、学校当番と連絡を密にして、必要に応じて全職員の理解・協力を得る。
- (3) 災害に対処できるように、防災施設、用具の点検・整備を行う。

3 昨年度までの避難訓練について

本校は年 2 回の避難訓練を実施しており、うち 1 回は地震を想定し緊急地震速報システムを利用した訓練を行っていた。事前に緊急地震速報システムが流れたときの行動や避難経路を確認する指導を全学級で行い、生徒は落ち着いて避難をすることができていた。

4 本年度の避難訓練について

例年同様、4 月と 9 月に避難訓練を計画した。また、避難訓練以外にショート訓練や引き渡し訓練を実施する予定であった。

(1) 第 1 回避難訓練（緊急地震速報システムを利用した訓練）

ア 教職員への研修

年度当初、本校の防災計画の周知をし、係会を実施した。また、避難訓練の計画を説明する際に、日常的な防災への取り組みや、緊急地震速報システムが流れた際の生徒や職員

の行動についての確認を行った。

イ 生徒への指導

学級で避難訓練実施までに、避難経路図の意味と掲示場所及び見方の説明、災害発生時の窓やドアの開閉について、緊急地震速報音を聞いたときの行動について等、事前指導を行う。

ウ 訓練の実施

生徒には時間を伝えずに緊急地震速報を流し、教室から避難を行った。事前指導の成果により、生徒は机の下に隠れるなど速やかに身を守る行動をとり、落ち着いて避難することができた。職員の係活動の確認も合わせて行い、地震発生時の対応について共通理解を図った。毎年緊急地震速報システムを利用した避難訓練を行っているため、本年度も落ち着いて訓練を行うことができていた。第1回の避難訓練は防災アドバイザーや消防署の方のご指導は計画していなかった。

(2) 第2回避難訓練、ショート訓練、引き渡し訓練について

計画を立てたが、コロナウィルス感染症対策により実施しなかった。

5 事業の成果及び今後の課題

緊急地震速報システムを利用した避難訓練は例年通り行うことができ、全生徒、職員間で地震発生時の行動について共通理解を深めることができた。計画していたショート訓練を行うことができなかつたため、来年度以降短時間でできるショート訓練の計画を増やし、訓練をより身近なものとして実施していきたい。また引き渡し訓練も実施し、災害発生時の生徒の動きや保護者との連携についても確認したい。防災アドバイザーや消防署の方にもご協力、ご助言いただき、活動を改善していきたい。

(文責 教頭 水木 勝俊)

防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について

—緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施—

安曇野市立穂高西小学校

1 はじめに

安曇野市立穂高西小学校は、安曇野市の北西、田園地帯に立地している児童数 392 名の学校である。学区は、松本から大町につながる国道 147 号線の西側から国営アルプスあづみの公園がある牧地区にまたがっている。近年、安曇野市は大きな地震に見舞われてはいないが、平成 23 年には隣接する松本市を震源とした震度 5 強の地震が、平成 26 年には白馬村を震源とした震度 6 弱の地震が発生している。安曇野市全体が、糸魚川静岡構造線上に位置していることから、mag8 程度の地震が発生する可能性は 14%といわれている。

学校周辺の交通事情を鑑みると、保護者や外来者の駐車スペースが十分に確保できないことが懸念される。また、学校西側を走る広域農道は交通量が多い一方で、学校周囲の道は狭く、さらに認定こども園が隣接しているため、災害時は交通渋滞が予想される。

2 安曇野市立穂高西小学校の防災体制について（概要）

「学校防災計画（消防計画）」「危機管理マニュアル」によって、災害時の防災に備えている。防災組織は、校長を本部長、教頭を副本部長として、総務、情報伝達、警備巡視、避難誘導、救護、消火の 6 つの係を編成し、全職員で組織している。また、年度当初の安全防災教育係の計画に則って、年間で 3 回の避難訓練を実施している。これに加えて、保護者の協力を得て、児童引き渡し下校訓練を実施している。また、今年度も、県の「学校防災アドバイザー派遣活用事業」により、信州大学教育学部教授廣内大助先生に 2 回来校いただき、防災対策についてご指導いただいている。

3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

(1) 緊急地震速報受信機設置に関わる取組 ～年に数回シェイクアウト訓練を実施～

年 3 回ある避難訓練を機会ととらえ、数日前にシェイクアウト訓練を実施するようにした。実施前には、各学級で、放送を聞いたら、素早く「危険なものから遠ざかる」「しゃがむ」「頭を守る」の 3 つの行動をとれるよう担任の事前指導を行った。そして数日後に、緊急地震速報機の訓練モードを利用して実際に放送を流して訓練を実施するという形をとった。これを、「授業時間」「休み時間」とパターンを変えて実施した。回数を重ねるごとに、緊急地震速報の警告音に対する児童の反応がよくなり、その場での素早い危機回避の対応がとれるようになっている。

(2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

11 月 25 日に、緊急地震速報受信システムの訓練モードを利用して、地震に備えるための無告知

避難訓練を実施した。二時間目終了後の業間の時間帯に訓練放送を全館一斉に流した。また、より実際に合わせた訓練となるよう児童だけでなく職員にも無告知とし、防火扉を用いての避難を合わせて想定に加えて行った。

児童は、安全を確保する行動がとれたかどうか、揺れがおさまったあと「おはしも」の合い言葉を守って校庭に避難できたかどうか、また、職員は児童全員を「速やかに・安全に」避難させることができたかを評価の観点とした。

防災アドバイザー廣内先生、市教育委員会の担当者に実際の避難の様子を見ていただき指導を受けた。



4 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 避難訓練に向けた指導（10月6日）

①訓練の内容について

3年間を1つのローテーションと考え、訓練内容について吟味していく必要がある。そのやり方だと、子どもたちは6年間のうちで2回同じ訓練を経験でき、担当職員が変わっても一貫した訓練ができるようなる。

②訓練の生かし方について

訓練を実施したあとに「振り返り」を行うことが大切。その際に、GIGAスクールで使用している一人一台端末も大いに活用し、それぞれが思ったことや考えたことを共有する方法も考えられる。また、アンケートを集計してデータ化するなど工夫していくことで、子どもが実感を伴いながら深く考える「ふり返り」ができるのではないか。

(2) 避難訓練後のご指導（11月25日）

①職員の課題

- ア 取り残されている児童がいないかの確認はしていたが、職員によって度合いの差がある。扉を開けてしっかりと声をかける（特にトイレなど）ことを共通認識していきたい。そのことで、行方不明者探索のために職員が校舎内に戻ることがなくなり、リスク軽減にもつながる。
- イ 今年度入れ替えた大型電子黒板を、普段使用しないときにはフック等で固定しておく必要がある。また、廊下にある学年の棚など、倒れてきそうなものはないか月1回行う安全点検の中で確認しておきたい。

②児童の課題

- ア 放送を聞いてすばやく行動できていた。その場で身を守る行動をとる際、窓や棚の近くでしゃがんでいる子どもがいたが、自分のまわりに危険なものはないかをチェックできるとさらによい。いざというとき、自分で考えて行動できる力を育てたい。
- イ 低学年児童の中で「先生の指示に従って校庭に避難しなさい」という放送を聞いて、担任のいる教室へ戻ろうとするが児童がいた。その場に一緒にいた高学年児童が声をかけてくれたので教室に戻ることはなかったが、「いざという時、その場からどう避難したらいいか」子どもが見て一目で分かる表示を掲示しておくようにしたい。

5 事業の成果及び今後の課題

- (1)防災アドバイザー廣内先生とのお話の中で、登下校中の災害が起ったときに、子どもたちが自分の身を守るために必要な訓練や学習の必要性を感じた。先生から県内の学校で実践されている様子を紹介していただいたが、本校においても防災教育の一環として授業で取り組んでいければと思う。
- (2)万が一災害が起ったとき、避難場所でもある学校として「地域との連携」をどう図っていくか課題となると思う。そこで、今年度はじめて、近隣にある認定こども園との合同引き渡し訓練を計画した。残念ながら日程が合わず実施できなかったが来年度も試みていきたい。また、子どもたちが授業の中で「地域の危険箇所」を調べて防災マップを作成するような防災学習を通して、保護者や地域とともに防災に取り組むことも考えられる。

(文責 教頭 大野 幸児)

穂高東中学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

－ 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 －

安曇野市立穂高東中学校

1 はじめに

令和3年度安曇野市立穂高東中学校は、学級数 19 学級（うち特別支援学級 4 学級）、全校生徒数 482 名、職員数 48 名の学校規模である。平成 13(2001)年、旧穂高中学校が東西 2 校へと分かれ、昨年度には開校 20 周年の節目を迎えた。

本校の所在地西側には北アルプスが連なり、そこを源流とするいくつもの河川が学区内を流れている。安曇野市地域防災マップによると、学区内の各地域は浸水想定区域や土砂災害警戒区域には入っていない。しかし、川の周辺域や四方に張り巡らされた堰や用水路からの浸水の可能性がないとは言えない。さらに、学区の東側には活断層の存在が指摘されており、同「ゆれやすさマップ」では震度 6 弱が想定されている。

本校は、開校してから大きな災害や震災には見舞われてはいない。しかし、近年は想定されなかった地域での台風による風水害や、各地で局地的大雨が見られる。安曇野市でも、2 年連続で大雨特別警報が発令された。突発的な災害に対して、生徒の安全を守るには、学校と市や地域が連携して、迅速かつ正確な対応する必要性があると考える。

本校では、5 年前から中学生が地域防災に対する当事者意識をもてるようにすることを目的として、「地域連携防災学習」を実施してきた。在宅時における災害等、緊急時の避難経路や誘導方法に関する知識を知り、適切な判断と行動により、安全に避難ができるようになるとともに、中学生も地域の一員として、災害時にできることは、進んで協力する心構えをもてるようになるためである。学校防災支援アドバイザーとして、信州大学教育学部教授の廣内大助先生をお迎えし、助言をいただきながらの実践的な訓練を重ねることで、いざというときに自ら判断して行動できる生徒の育成を目指した取組を継続している。

2 安曇野市立穂高東中学校防災体制について

(1) 防護団組織

通報・連絡係	教務主任 他	◇指示、通報、計時、旗・拡声器の準備、校内放送 ◇警備会社や消防署への連絡
避難・誘導係	学年主任 他	◇避難順路、要領、順路表、隊形、休み時間の避難方法 ◇防災予防、事前事後指導内容など
救護係	養護教諭 他	◇病人けが人救助、保健室内の生徒避難誘導、担架準備 ◇救急箱や毛布の準備など
警備係	生徒指導係	◇避難遅れの生徒の救助、見回り、消防車などの誘導 ◇災害時における関係者以外の校内への進入阻止
消火係	消火係職員	◇消火訓練、消火器具の確認と保守管理
搬出係	搬出係職員	◇重要書類や貴重品等の搬出

(2) 避難訓練実施状況

① 第1回避難訓練（全体避難確認）

ア 実施日 4月13日（水）第3校時

イ 訓練の重点・目的

- ・在校時における災害（火災）を想定し、緊急時の避難経路や誘導方法の確認
- ・各係（防護団）の任務の確認
- ・初期消火の方法の習得

ウ 学習内容

- ・学級指導（生徒の確認、避難訓練の注意事項の確認など）
- ・避難命令（火災を想定）
- ・避難行動
- ・防護団係活動
- ・初期消火訓練
- ・穂高消防署員による講評と職員への指導

エ 学習の実際

- ・全体指示をよく聞き、指示された避難場所へ整然と移動することができた。集合



後は整然と整列し、教師の人員点呼に協力した。教師は、新年度最初の避難訓練であり、生徒とともに避難経路の確認をしたり、本校の点呼や職員防災組織のあり方について認識したりする機会となった。

② 学区内の各区長と生徒による地域防災懇談会

ア 実施日 7月15日（木）放課後

イ 活動の重点・目的

- ・各地区の危険箇所についての情報共有
- ・「地域と連携した防災学習」の事前打合せ

ウ 学習内容

- ・各区長と校外生徒会地区長による危険箇所についての情報共有
- ・災害時に中学生に期待することと中学生が協力できそうなことの意見交換
- ・「地域と連携した防災学習」実施案の作成



エ 学習の実際

- ・各区長からは、学校の中だけでは分からない、各地区の実情、地域で求められている学校の役割について情報やご意見をお寄せいただいた。
- ・生徒からは、中学生目線で地域の安心のために必要な活動を提案したり、実際に動こうとしている東中の気持ちを区長に伝えたりした。

③ 第2回避難訓練（引き渡し訓練、地域と連携した防災学習）

ア 実施日 9月3日（月）午後

イ 活動の重点・目的

- ・有事に備え、生徒の安全確保と保護者への確実な引き渡しについて「学校-生徒-家庭」がその動きを把握

- ・地域の一員として、災害時にできることは進んで協力する気持ちの涵養

ウ 学習内容

- ・避難命令と避難行動
- ・学級ごとに分かれて人員点呼後、保護者への引き渡し
- ・各公民館での防災学習（区長等各地区の計画による）

エ 学習の実際

- ・安曇野市ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として中止。その代替えとして、NHK が配信している防災学習関連の映像資料を視聴し、自然災害に関する知識や日頃からの備え、災害時にできる地域貢献の具体を考えた。地域防災の一助となるよう、生徒から出された考えを各区長に伝えた。



④ 第3回避難訓練（事前予告なし）

ア 実施日 10月26日（火）午後（事前予告なし）

イ 訓練の重点・目的

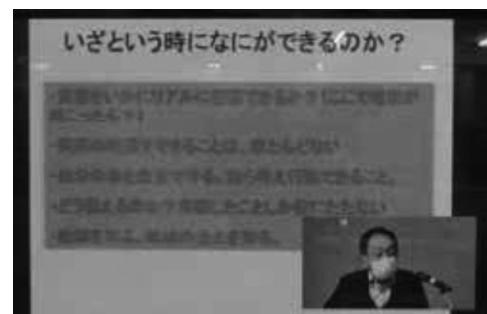
- ・大地震発生を想定し、「緊急地震速報」の受信放送を体験し、地震発生前後の一次避難行動、二次避難の訓練および防災アドバイザーによる講演を通して、有事の際の判断力や緊急時の安全な避難への意識を高める。
- ・職員は、被災状況の掌握と生徒の避難を確認するための巡回ポイントを確認する。

ウ 学習内容

- ・緊急地震速報放送の確認
- ・一次避難（各自避難行動をとる）
- ・職員による地震発生後の校内への対応指示伝達および未避難者有無の確認
- ・二次避難（学年ごと体育館・柔剣道場・講堂へ避難）
- ・信州大学教授の廣内大助先生による講評と防災学習（テレビ放送）

エ 学習の実際

- ・事前予告なしの避難訓練であったが、生徒はその場で放送を聞き、避難する場所や方法の指示を受けて一人ひとりが考えて避難した。
- ・避難場所となった体育館では、決まりよく移動一点呼一全校生徒の安全確認一避難解除と一連の行動が滞りなく実施できた。



3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 8～10月 事前打ち合わせ

「引き渡し訓練と地域と連携した防災学習」と「第3回避難訓練」に向けた打合せとご助言をいただく内容についてのやりとりをメールや市教委担当者を通じて実施した。

(2) 9月3日（金）「引き渡し訓練と地域と連携した防災学習」当日

安曇野市ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として本活動が中止となったため、来校して直接的なご指導をしていただくことができなかつた。そこで、昨年度のご指導で助言していただいた内容を基に、次の観点から防災係が主体となって防災学習を実施した。

- ① 何のために避難訓練を行うのか」の視点から、熊本地震や白馬で起きた地震など実際に起きた事例をもとに、「必ず来る災害」に対してどのような準備ができるかを考える。
- ② 被災時、「中学生の力」で地域や住民に対してどのようなことができるかを考える。

生徒は、関連する映像資料を全校で視聴して、災害をイメージした後、個々で具体策を考えて一人一台端末に入力し、全校の意見を互いに共有した。各区の防災計画見直しの一助となるよう、生徒から出された考えを係がまとめて各区長にお伝えした。

(3) 10月26日（火）「第3回避難訓練（事前予告なし）」当日

- ① 実際に現場で本校生徒の避難行動の様子から、次の指導をいただいた。

『災害をいかにリアルに想像できるか』『備えたこと以上のこととはできないのでどう備えるか』が大切である。これができていれば、実際の場面で状況に応じた退避や避難方法が考えられ、安全性がより高まる。』

- ② 職員には、次の指導をいただいた。

- ア 地震の際、建物の構造上、各校舎の負荷を受けるため、連絡通路は危険な場所である。生徒には連絡通路からは離れるよう指示すること。
- イ 特別教室の避難の方法を明確にする必要がある。例えば、教室の後方は物品落下の可能性があるため、教室前方に避難するよう指示すること。
- ウ トイレ巡回の際には個室まで確認することや、教室を確認した際には確認済みのマークをつけるなど、職員による残留者の確認方法を統一すること。

4 事業の成果及び今後の課題

- (1) 廣内大助先生には、本校の防災教育に係わって継続的にご指導していただいている。そのため、前年度の指摘を受けて、改善した様子をご覧いただき、評価を受けることが危機管理マニュアル及び学校安全計画を見直し、学校の状況にあった防災管理や防災教育の修正に生かされている。
- (2) 「避難訓練の内容を3年間で一巡するようにカリキュラム化」「中学校における保護者への引き渡し訓練の実施や、第一避難所である公民館への集団下校等、保護者や地域、小学校とも連携した訓練実施」「地震速報受信システムを利用した実践的防災訓練」は廣内大助先生のご助言に拠るところが大きい。
- (3) 実践して明らかになった成果と課題を基にして、有事の際の対応マニュアルは更新していくものだと考える。そのため、安曇野市ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として2年連続で「地域と連携した防災学習」の中止と、本年度初めて計画した「保護者への生徒引き渡し訓練」も実施できなかつた影響は大きい。このような状況だからこそ、今後も本事業を活用して廣内大助先生のご助言のいただきながら、本校の防災管理や防災教育を充実していきたい。

（文責：教頭 保科 潔）